

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070961238
法人名	アート園 有限会社
事業所名	グループホーム アート園
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市博多区浦田1丁目12番12号 (電話) 092 - 503 - 3477

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	12月14日

【情報提供票より】(平成19年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤	24人, 非常勤 1人, 常勤換算 3.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての3階～5階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～36,000円	その他の経費(月額)	(水道高熱・共益費)25,000円	
敷金	有(105,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	25名	男性	5名	女性	20名
要介護1	7名	要介護2		9名	
要介護3	6名	要介護4		3名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 83.7歳	最低	64.8歳	最高	98.1歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永野病院 / 林整形外科 / ブライト歯科クリニック / 人関クリニック / 千鳥橋病院付属須患診療所
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームアート園」は、鉄骨コンクリート造り5階建ての3～5階に位置し、3ユニットを有する。職員は、入居者一人ひとりを尊重した「暮らしの場」としての家庭的な雰囲気づくりに工夫を凝らしている。例えば、各ユニットの入口となっているエレベーターの扉が開くと、ユニットごとに花の香りや食事の準備の匂いがし、生活感のある暮らしを実現している。各居室扉には、色とりどりの個性豊かな暖簾が掛かっており、そのことが入居者に自室を伝えるだけでなく、さりげない個の主張とフロア全体に彩りや穏やかな雰囲気を与えている。また日常の様々な場面で、入居者の職歴や特技を発揮できる機会を見出し、入居者と職員が、共に学び支えあう関係づくりに努めている。地域との関係は、隣接する公民館で月に1度開催される高齢者の憩いの場である「ふれあいサロン」に参加するなど、地域の方々と積極的に交流を行なっている。さらに、「外部評価」の意義も主体的に捉え、内部で「外部評価委員会」を設け、「教育・家族・地域」などの各委員会が連携しながら、理念の実現及びサービスの質の向上に努めている。現在、「センター方式」の効果的な活用を目指して全職員で取り組んでおり、今後の展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の評価を真摯に受けとめ、独自に外部評価委員会を設け、理念をはじめ入居者のプライバシー・介護計画(アセスメント)の改善に向けて取り組み、1年間で改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価委員会を設け、(前回の)指摘事項について、「改善計画書」を作成し、改善点には、優先順位をつけ、全職員で積極的及び計画的に取り組んでいる。委員会での決定事項は、各フロアごとに回覧・ミーティングで報告を行い、取り組み内容を全員で共有できる仕組みとなっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの入浴状況やレクリエーション・外出状況・サークル活動の内容などを報告・話し合い、サービスの質の向上につなげている。また、災害などの緊急時は、ボランティアの協力も得られるようになっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や要望などに対応する窓口として「家族係」を設け、家族が気軽に意見や要望などと言える環境を整えている。定期的(3ヶ月に1回)に「園便り」を発行し、健康状態・日常の様子(写真を添えて)・職員の異動などの報告を行っている。変化が生じた場合は、随時電話にて報告している。家族が訪問の際には声かけ、意見や要望を伺うようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近郊の銀行ロビーに入居者のレクやサークル活動で作成した作品を展示場所として活用させていただいている。地域との関係は、敬老会や老人クラブ・ふれあいサロンに参加し、公園の掃除活動にも参加している。グループホーム主催の行事には、地域の方々にも呼びかけ、交流を図っている。また、地域の中学生の職場体験学習としての受け入れも行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりを「個人」として尊重すること、及び「地域の人々と交流を深め、地域に開かれた事業所であること」を定めた独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、リーダーと夜勤者にて、申し送りの時に理念を唱和している。また、サービスの提供場面での意識付けがなされ、職員全員で理念の再認識がされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近郊の銀行ロビーに入居者のレクやサークル活動で作成した作品を展示場所として活用させていただいている。地域との関係は、敬老会や老人クラブ、ふれあいサロンに参加し、公園の清掃活動にも参加している。グループホーム主催の行事には、地域の方々にも呼びかけ、交流を図っている。また、地域の中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。		
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価委員会を設け、(前回の)指摘事項について、「改善計画書」を作成し、改善点には、優先順位をつけ、全職員で積極的及び計画的に改善に取り組んでいる。委員会での決定事項は、各フロアごとに回覧・ミーティングで報告を行い、取り組み内容を全員で共有できる仕組みとなっている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的な開催までに至っていない。会議の内容は、入居者の状況・サービス内容の説明・外部評価の結果、及びそれに対する取り組みなどの報告である。現在、今後の開催に向けて、地域に呼びかけを行っている。定期的な開催が求められ、まずは気軽に集まっていただくなど、参加の工夫が求められる。		グループホームの行事の機会を活用するなど、気軽に集まっていただけの機会や場を設け、徐々に運営推進会議の意義など理解を高めていくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当窓口には、電話や訪問により、ケアサービスの取り組みを伝えており、家族介護教室などの市町村事業を積極的に受託している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現時点で該当者はいないが、教育委員会(事業所内設置)が、定期的に主催する勉強会にて、「成年後見制度」、「地域福祉権利擁護事業」を、テーマとして取り上げ、必要に応じて支援出来るよう全職員が理解に努めている。		
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的(3ヶ月に1回)に「園便り」を発行し、健康状態・日常の様子(写真を添えて)・職員の異動などの報告を行っている。変化が生じた場合は、随時電話等にて報告している。金銭管理については、預かり明細書を送付し、確認印を捺印後に返送してもらうようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望などに対する窓口として「家族係」を設け、家族が気軽に意見や要望などが言える環境を整えている。家族が訪問の際には声をかけ、意見や要望を伺うようにしている。運営推進会議を家族が意見や要望を言える機会としてとらえ活用するなど検討が求められる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアができるよう、異動は極力行わないよう配慮している。職員が異動の場合は、詳細な申し送りを行なうなど、入居者のダメージを最小限に押さえるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、性格や年齢などの理由で採用対象から排除しないようになっている。また職員のレベルアップのために勉強会や外部研修など参加できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	外部の研修に参加し、伝達講習を行い、他の職員へ周知を図ったり、ホーム内の勉強会でも、テーマとして取り上げ、職員が理解をより高められるように努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	福岡市事業者協議会の研修に参加し、その内容を勉強会で報告している。また、定期的に勉強会を開催する委員会を事業所内に設置し、職員が学ぶ機会を確保している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡市事業者協議会に加入しており、そこで開催される研修に定期的に参加しており、他の事業所の職員と交流する機会がある。意見交換や情報交換を行い連携を図り、サービスの質の向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学に来て頂いた時に食事を勧め、ホームの生活を体験できるよう努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者ができる範囲で、職員と共に食事の準備や掃除、レクリエーションを行い共に楽しんでいる。また入居者それぞれの特技や職能(例:包丁研ぎ、裁縫、茶道)を発揮する場を設け、入居者と職員が共に学び、働く関係づくりに努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	アセスメントに関して、新たに「センター方式」を導入し、一人ひとりの思い、生活歴の把握に努め、入居者の思いや意向の把握に全職員で意欲的に取り組んでいる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	日頃の関わりの中で、思いなどを聞き、職員全員でアセスメントや意見交換・カンファレンスがなされ、モニタリングが行われている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	本人や家族から新たな希望や要望がない場合でも、ケアプランは随時見直し、状態の変化が生じた場合、介護計画の見直しがされている。また、3ヶ月毎にフロア職員でのカンファレンスが開催されている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族が病院受診など希望し、受診など連れて行けない場合は、職員が提携病院以外でも受診に連れて行く移送サービスや受診の支援を行っている。また、入院時も、家族の状況に応じて洗濯物の対応なども行なっている。墓参り(盆、年末)の支援を行なっている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医へできるだけ受診できる様に支援され、かかりつけ医には情報交換や連絡が取れるようにされている。往診には2ヶ所の医療機関を確保しており、緊急時には、提携の総合病院を紹介して頂ける体制がある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホスピス病棟を有する医療機関との連携体制があり、ターミナルケアの実績がある。家族・医師・職員を交えて話し合いを行い、状態変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげていけるよう配慮している。また、ホームでの終末期に向けた指針も作成されている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員同士で常に意識し、目上の方への尊敬の気持ちを忘れないように配慮し、入居者のプライバシーを損ねるような声かけやケアには気をつけ、個人記録など取り扱いに注意がなされている。また、施設長より指導もなされている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者が生活を送りやすいように、起床・就寝・食事時間を定めず、柔軟な対応と時間制限のない一人ひとりの状態や思いに配慮した、本人が望む過ごし方の支援が行われている。また、本人の意志を尊重したサークル活動を支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	献立は入居者の希望に応じ、3ユニット全て違う献立を作成している。時にベランダ菜園の収穫を楽しむなど支援している。入居者と職員と一緒に準備・片付け(野菜の皮むき・テーブル拭き・お盆並べ・お箸並べなど)を行っている。朝食・昼食は、入居者と職員と一緒に行うようにしている。時折、外食(旅館や料亭)も実施している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は時間を制限せず一人ひとりがゆっくりと入浴できるように支援がなされている。ゆくゆくは入居者の希望する時間に入浴可能となるように検討されている。希望に応じて足浴もでき、定期的に入浴剤を替えるなどの配慮をしている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	趣味でお茶や筑前琵琶、踊りなどをされていた方など、得意分野で力を発揮してもらえるような場面で声かけを行い参加が促されている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の体調などに配慮しながら、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩・買い物・ドライブなどに出かけるよう努めている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は入居者が一人で外出する事が察知できる日は、ドアを手動にしたり、一緒について外出したり、鍵をかけないケアを実践している。エレベーターは自由に移動ができるようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方の訓練を行っている。緊急時は、民生委員を通じて地域の協力が得られるようになっている。また、アート園消防計画を備え、博多消防署(空港出張所)と近隣防火協定がなされている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	毎日、食事摂取や水分摂取のチェックが行われており、水分などは声かけにより、できるだけ摂るように配慮されている。咀嚼が悪い方などお粥やとろみ食、キザミ食などが用意されている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	各ユニットの入口となっているエレベータの扉が開くと、ユニットごとに花の香りや食事の準備の匂いがし生活感があり、季節を意識した掲示物や入居者の作品が置かれている。各々の居室には色とりどりの個性豊かな暖簾がかかっており、さりげなく個性的な演出の工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人・家族と相談しながら、使い慣れたタンスなどの家具を持ってきていただき、写真を飾るなど、居心地良く、安心して暮らせるよう努めている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			